

「令和の森づくり」土壌改良・緑化事業について

●万九千神社「令和の森づくり」事業とは

急激な都市化の波を受け、変貌しつつある神社周辺の豊かな歴史的、自然的景観を守り抜くことを目的として、令和元年頃より実施している事業です。

●緑化計画の3つの特徴

◎もともこの地にあった植生（潜在自然植生）での森づくり

「風土記植物」（出雲國風土記に記載されている古代出雲の植物）を中心に植栽し、より土地の風土に適した生育、更には景観の醸成を図ります。

◎木炭と堆肥で土づくりし、植物と菌根菌との共生環境を構築

多くの穴が開く炭で、土中に空気や水を多く含ませ、さらに堆肥の栄養分によって植物の根に侵入する菌根菌を活性化します。

◎炭素固定する木炭を使うことで二酸化炭素の排出量を抑え、地球温暖化防止に貢献

この木炭は、出雲カーボン株式会社の商品「炭八」です。家屋から出る廃材の木材を再利用して作られており、環境への配慮・循環型社会の構築に貢献しています。

●令和8年度の計画

4月より、境内北側の敷地で土壌改良工事に着手します。

はじめに地中に炭を入れます。表面の土には炭と堆肥を混ぜ合わせ、豊かな土を作ります。

土壌が出来上がったら、石を並べて土砂流出の防止・森の景観の造成を行います。

今年度事業は、県内外の皆様のご寄付による「令和の森づくり」基金の内、約1千万円の浄財で実施します。改めて篤く御礼申し上げます。

●今後の展望について

無事に土壌が出来上がり、石組みをして森づくりの土台が整ったら、令和9年度以降、少しずつ植栽を増やします。今後の植樹や森の初期整備は、毎年全国からお寄せいただく「令和の森づくり」基金の奉賛状況に応じ、まずは5年程度かけて徐々に行います。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。